

## 学校自己評価システム取組状況調査報告書

平成29年度

県立学校評価委員会

学校名	埼玉県立所沢商業高等学校		Cグループ
項目	調査の観点	取組状況に関する所見	
目指す学校像	目指す学校像は、学校の現状、課題等を踏まえて設定されているか。	資格取得を促進して生徒の未来を拓いていこうという学校の姿勢が示されている。創立50周年に向けて、新しいステージにふさわしい学校の強みなどを発展させた魅力ある学校像の設定が期待される。	
重点目標	学校が抱える課題の解決に向け、児童生徒の実態など学校の状況を踏まえて、目標の重点化が図られているか。	前年度に比べて学校の目指すところが明確化された。学校の実態を踏まえて四つの目標が有機的に設定されている。目指す学校像と連動させて、今後のレベルアップに向けた教育活動の指針となる目標とすることが望まれる。	
重点目標達成への取組	重点目標の達成に向けた組織体制が整備され、適切に機能しているか。	評価運営委員会・企画委員会と分掌等が連携し、学校自己評価システムが組織的かつ適切に運営されている。学校関係者の意見などもうまく活用して取組が実施され、学校がより良い方向へ進んでいる。	
	方策は適切に策定され、効果的に実施されているか。	重点目標達成のため、分掌・学年等のシートが全体シートと連鎖させて作成されている。現状と課題に基づき、分掌等での検討を踏まえて評価項目の達成に向けた方策が策定され実施されており、組織的・効果的な取組となっている。	
	校長の的確なリーダーシップの下、教職員が共通理解を深めながら組織的に取り組んでいるか。	校長が学校の長期的な方向を意識しながら、教職員一人一人の能力を生かしつつ、学校自己評価システムに基づいて取組を進めている。校長の的確なリーダーシップの下、教職員が共通理解を持って組織的・計画的に教育活動に取り組んでいる。	
	学校関係者評価等を踏まえて、達成状況や課題を検証し、取組の改善・更新が行われているか。	アンケートを実施し、結果を学校のホームページに掲載するなど積極的に活用している。学校に寄せられる期待や意見を基に課題を明確にして、次年度の目標・方策に引き継ぎ、学校とのつながりが強い地域などと連携を図りながら、解決に向けて組織的に取り組んでいる。	
特記事項			